第１９回とさ・子ども主体の学校生活づくりを考える会（通称りぐる会）

テーマ　～豊かに生きよう～今を　明日を　将来を～　　報告

令和４年１２月１０日（土）に開催されました「第１９回りぐる会」の報告をします。

１　出席者は２４名で，内訳は特別支援学校８名，特別支援学級８名，教育研究所１名，通級指導教室１名，県職員１名，弁護士１名，助言者・事務局合わせて４名です。

２　話題提供は，「子どもたちと仲間との出会いに感謝して」と題して，高知市立横浜新町小学校教諭　北川　浩美　さんでした。特別支援学校・学級の経験。生活単元学習を基盤として学校生活づくりを追求。教職員や地域との交流・連携。実践や姿勢，子どもたちのことばやうれしい姿。３８年の知的障害教育の歩みから，たくさんの宝物をいただきました。

３　明治学院大学准教授　高倉　誠一　さんから，実践にこだわり，子ども主体で本格的な実践を，そして「合わせた指導」は手段ではない，と熱く語られました。「インクルーシブ教育のこれから」の印刷物が配られ，知的障害教育の在り方について考えたことでした。

４　独り言シリーズの　中坪　晃一　さんは，「主語は子どもであり，学びの主体者は子どもです」と簡潔で揺るがない“中坪節”。本会発足以来支えてくださいましたが「今回が最後」とご挨拶がありました。見捨てないでぇ・・とすがりつき，未練がましく思います。

５　KUMI ちゃん講座では，「ハラスメント」について弁護士　中橋　紅美　さんからお話をいただきました。「〇〇を言ったらダメ」というのではなく，その人と自分との関係が問題であり，コミュニケーションをとり人間関係を作ることが大切だと教えていただきました。

６　本年度サポート事業の公開授業時の指導案の提供もあり，実践上の宝物になります。

７　「石川大会」の参加者から報告をいただきました。「大会」云々より，行き帰りの道中での仲間とのやり取りや夜のミーティングから大きな収穫があったとのことでした。仲間との率直な会話の時間が，立ち止まって考える機会になりました。

８　久々の「懇親会」。あえて「お客」とは言いませんでしたが，空白の３年間の思いが溢れ出て，参加者は時間いっぱい語り合い，“高知の夜”になりました。その後も場所を変え，注意しながらもさらに盛り上がった仲間たちでした。

＊　次回は，令和５年６月を予定しています。またお会いしましょう。

りぐる会　八策

一　子ども主体
二　続ける
三　実践をベースに高め合う
四　柔軟な対応
五　仲間を増やす
六　あせらず　じわじわと
七　功を求めず
八　本音で語ろう

＊「りぐる」とは　土佐弁で　①いつもよりがんばる　念入りに　②筋を通して，軸をぶらさない　です。文：事務局